

# 永 幡 幸 司 研 究 室

## 「良好」な音環境のデザインを目指して

良好な音環境で暮らしたい - これは聴力を有する全ての人に共通する願いであろう。その願いを実現することこそ、永幡研究室の究極の目標である。

この目標を達成するためには、どのような音環境を創出していけばよいのであろうか？ - これを明らかにすることが、永幡研究室の研究主題である。

本研究室は、世界の音環境がより「良好」なものとなることを目指した研究に日夜励んでいる。

### 音環境のバリアフリー・デザイン

「良好」な音環境である条件の1つとして、「誰もが安心・安全に生活できること」を挙げられるだろう。この条件を実現するには、現状の音環境の「バリア」がどのようなものなのか、明確にする必要がある。



視覚障害者のお宅に機材を持ち込み音響心理実験を実施中

本研究室では、視覚障害者の方々と共に、現状の音環境のバリアを検討し、改善の方策を考察している。

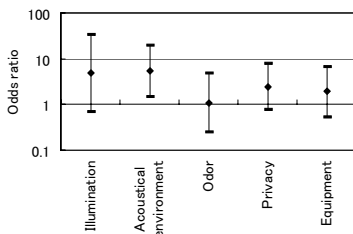
### 音環境コミュニケーション

「良好」な音環境を創出するためには、音環境に関わる全ての人々の協働が必要不可欠である。そのためには、立場を異とする者間での、音環境についてのコミュニケーションが欠かせない。

そこで本研究室では、異なった立場の者同士が、音環境コミュニケーションを円滑に行うための方法論を模索している。

### 震災避難所の音環境

本研究室では新潟県中越地震の避難所を事例とし、避難所の音環境の問題点の調査と、音環境とストレスの関係についての検討を行った。



避難所の生活環境に対する愁訴とストレス愁訴との関係を示す図。音環境に問題を感じた者は、感じなかった者と比べて6倍近くストレスを感じやすかった。

その結果、体育館よりは公民館の方が音環境の問題が少ないこと、避難生活中に音環境の問題を感じた者は、感じなかった者と比べて有意にストレスを感じていたことなどが明らかとなった。

### その他の研究テーマ

永幡研究室では、他に、下記のような研究を遂行している。

- ・ 防災無線のあり方について
- ・ 選挙カーの騒音問題について
- ・ 街頭宣伝放送の規制値再考
- ・ 騒音問題研究史
- ・ 騒音概念の時代変遷
- ・ 市民を対象とした音環境教育
- ・ 鉄道沿線住宅における音の問題
- ・ 音の環境アセスメントについて

など

### 問い合わせ

E-mail: nagahata@sss.fukushima-u.ac.jp  
<http://www.sss.fukushima-u.ac.jp/~nagahata>